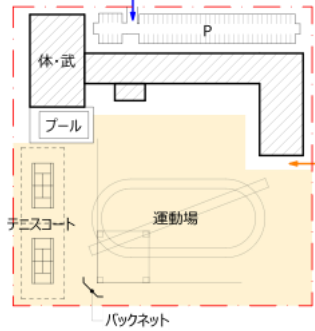


■建設候補地の比較検討（各候補地におけるゾーニングの検討）

候補地	豊山中学校		豊山スカイプール+駐車場+豊山グランド		市街化調整区域
	A 案	B 案	A 案	B 案	
配置イメージ(↑N) ※体：体育館 武：武道場 →：歩行者動線 →：車両動線 ※トラックは200m ※本図は必要面積を配置した概略検討段階のイメージである					
配置の考え方	既存体育館を残しながら、運動場に仮設校舎に仮移転した上で敷地北東側に校舎を新築する		豊山スカイプール敷地に教室棟を新築し、豊山グランド敷地に体育館棟と運動場を設ける		市内の市街化調整区域内の敷地を購入し、教室棟、体育館棟の両方を設ける
■敷地環境	△町の中央に位置するため、利便性に問題ないが、周辺道路が狭い		△町の中央に位置するため、利便性に問題ないが、液状化の可能性がある。		△町の外縁に位置するため、居住地により通学距離に差が出る。周辺に歩道が整備されていないため、通学時の安全性の懸念がある。
敷地面積	約 1.8ha		約 2.2ha		約 2.5ha
位置、通学距離	○町のほぼ中央に位置している。 ○国の基準（概ね 6km）の半分以下の距離で通学可能 ○通学距離の地域差に大きな偏りは生じない。		○町のほぼ中央に位置している。 ○国の基準（概ね 6km）の半分以下の距離で通学可能 ○通学距離の地域差に大きな偏りは生じない。		△町の外縁に学校が設置される。 ○国の基準（概ね 6km）以下の距離で通学可能 ○通学距離の地域差に大きな偏りが生じる。
地震や洪水による被害	△地震：最大クラスの地震時に震度 6 弱 ○液状化：計算対象外 △洪水：最大で 0.3m～1.0m未満程度の浸水が発生。 （平成 12 年 9 月東海豪雨による浸水あり（敷地南側道路））		△地震：最大クラスの地震時に震度 6 弱 △液状化：液状化の可能性は高い △洪水：最大で 0.3m～1.0m未満程度の浸水が発生。 （昭和 51 年 9 月集中豪雨による浸水あり（豊山スカイプール））		△地震：最大クラスの地震時に震度 6 弱 △液状化：液状化の可能性は高い △洪水：最大で 0.3m～5.0m未満の浸水が発生。
地域との交流 （周辺公共施設）	○豊山小学校、総合福祉センターしいの木に近接している		○社会教育センターに近接している		△特になし
周辺の道路状況	○敷地西側の県道は、朝夕を中心に交通量が多いが十分な歩道が設置されている。 △北側道路は幅員が狭く車両の交互通行が困難な生活道路であり、東側南側道路は、一方通行の生活道路である。 △県道側の門が狭いため、大型車両は東及び南側の道路よりアプローチすることになるが、幅員が十分でないためアクセスに難がある。		○敷地に面する県道は、朝夕を中心に交通量が多いが十分な歩道が設置されている。 ○敷地に面する町道は、歩道が整備された幹線道路若しくは交通量の少ない生活道路である。 ○大型車両の搬入出は比較的容易となる。		△幅員に余裕がある道路もあるが、必ずしも十分な歩道は整備されていない。 △物流倉庫や商業施設が近隣にあり、交通量が多い道路もある。
駐車場台数（教職員・地域開放など）	○65台以上		○65台以上+50台（社会教育センター用）		○65台以上
■屋内教育環境	○良好な環境が確保可能	○周辺への配慮が必要になる可能性があるものの良好な環境を確保可能	△良好な環境を確保可能であるが、体育館と教室棟の距離がある	○周辺への配慮が必要になる可能性があるものの良好な環境を確保可能	○周辺への配慮が必要になる可能性があるものの良好な環境を確保可能
階数	△4階建				○3階建 △周辺は農地環境であり日当たりを考慮する必要がある
普通教室への日照	○南東向き	○南東向き	○南西向き	○南東向き	○南向き
体育館へのアクセス	○既存とほぼ同じ距離	○既存とほぼ同じ距離	△連絡橋を通じてアクセスする必要がある	○既存とほぼ同じ距離	○既存とほぼ同じ距離
周辺から受ける影響	○特になし		△周辺に工場が位置しており、対策が必要となる可能性がある		△周辺に工場、物流倉庫等が点在しており、対策が必要となる可能性がある。
周辺への配慮（音や開口位置等）	○現状とほぼ同じ配置であるため、影響は少ないと考えられる	△新たに南側住宅地へ建物が面するため、配慮が必要となる可能性有	△周辺工場、空港関係施設への配慮が必要となる可能性有		○特になし

■運動場環境		△日当りの良い運動場を確保できるが、現状より狭くなる		△現状より狭くなり、建物の影が落ちる時間帯がある		△現状と同等の広さを持つ、日当りの良い運動場を確保できるが、教室棟と別敷地になるため、アクセスが悪い		△現状より広く、日当りの良い運動場を確保できるが、教室棟と別敷地になるため、アクセスが悪い		○周辺への配慮が必要になる可能性があるものの、良好かつ広い環境を確保可能	
規模 ※現状 9,800 m ² ※面積は配置イメージの着色部分を合計したもの ※参考：テニスコート 1 面 913 m ²		約 7,900 m ²		約 8,500 m ²		約 10,200 m ²		約 12,800 m ²		約 14,300 m ²	
		△現状より狭くなる		△現状より狭くなる		△現状より少し広く確保できる		○現状より広く確保できる		○現状より広く確保できる	
校舎からのアクセス		○直接アクセス可能				△連絡橋を通じてアクセスする必要がある		△歩道橋を通じてアクセスする必要がある		○直接アクセス可能	
運動場の日照		○日射を遮る建物はない		△校舎の影が落ちる		○日照を遮る建物はない				○周辺は田畑のため日射を遮る建物はない	
テニスコートの確保		○2 面確保可能 ※既存体育館棟に 1 面有				△1 面確保可能		○2 面確保可能			
その他		-		-		-		-		△周辺は農地環境であり、照明設備等の影響を考慮する必要がある。	
■整備コスト (安い順)		2 位		1 位		3 位		4 位		5 位	
造成の有無		○無				△有				※取得敷地による	
仮設校舎の有無		△有		○無		○無				○無	
体育館の改築有無		○無（既存を改修して利用）				△有				△有	
プールの改築有無		○無（既存を利用）				○無（現豊山中学校のプールを利用する）				△有	
その他		○下水道整備済				△連絡橋を設置する場合は費用が必要		△既存県道歩道橋を移管してもらえない場合は別途歩道橋が必要		△液状化対策工事が必要 △用地取得費が必要 △下水道の整備予定がないため、浄化槽が必要	
						○下水道整備予定あり △液状化対策工事が必要 △既存の雨水貯留施設、耐震用防火水槽の再敷設が必要となる可能性がある △隣接工場の臭気対策が必要となる可能性がある					
■工期・工事中的影響		△工事の騒音等で生徒の学習環境が悪いと共に引越しが 2 回必要になる等、学校運営に負担がかかる		△工期は短い、工事中的騒音等で生徒の学習環境が悪い		○別敷地であるため、学校運営に与える影響は無 い				○別敷地であるため、学校運営に与える影響が少ないが、手続き等で時間をとられる可能性がある	
新校舎供用開始までの期間		△約 46 ヶ月		○約 32 か月		○約 29 ヶ月				△約 29 ヶ月＋土地取得（約 1 年）及び各種手続き期間（約 1.5 年）	
周辺環境への影響		△住宅地側から車両の出入りが発生する △住宅地への騒音や粉塵の影響がある				○建物建設エリアは住宅地に隣接しない △近隣事業者への配慮が必要 △社会教育センター利用者への配慮が必要（駐車場）				○周辺はほとんどが田畑であるため影響は少ない	
学校の運営への影響	利便性	△仮設校舎での運営が必要		△工事中はグラウンドが狭くなる		○影響無し				○影響無し	
	騒音	△同一敷地内での工事となる				○影響無し				○影響無し	
	引越回数	△2 回		○1 回		○1 回				○1 回	
その他										△都市計画手続きが必要 △農地転用手続きが必要 △開発行為手続きが必要	

総評	利便性が高く、日当りの良い運動場が確保できるが、面積面での運動場環境の劣化が懸念される。整備コストは安価であるが、工事期間中の学校運営及び周辺住民に与える影響は大きい	利便性は高いが、日当たり、面積の面での運動場環境の劣化が懸念される。整備コストは最も安価であるが、工事期間中の学校運営及び周辺住民に与える影響は大きい	教室と体育館・運動場が別敷地となりアクセス面での懸念はあるが、現状と同等規模の運動場の確保が可能となる。コスト面での優位性はやや劣るが、工事期間中の学校運営に与える影響は無い	教室・体育館と運動場が別敷地となりアクセス面での懸念はあるが、広い運動場を確保できる。コスト面での優位性はやや劣るが、工事期間中の学校運営に与える影響は無い	学校運営に与える影響が少なく、広い運動場を確保することができるが、通学距離の偏り、土地取得等によるコストの高騰が懸念される
----	---	---	---	--	---

	豊山中学校	豊山スカイプール+駐車場+豊山グラウンド	市街化調整区域
A 案			
B 案			